

井藍を愛でる

発見を共有しよう!



みんなでシェアして、愛でる様子を覗いてみましょう。

#藍を愛でる で投稿した写真やお送りいただいた動画は次回の愛でる通信・アーカイブ動画に載るかもしれません!

Instagram

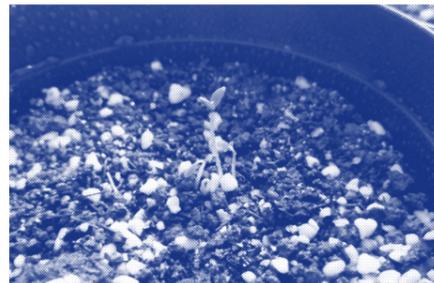
#藍を愛でる で投稿!

藍の學校 @ai.no_gakko
藍を愛でる @ai.mederu
ぜひフォロー&メンションしてください!

コメントに
いきます!



種がちいさい。芽が出ますように。
#藍を愛でる



芽が出てきた!! がんばれ...!!!
#藍を愛でる

藍を愛でる公式LINE

▼友だち追加

右のQRコードから友だち追加していただき、
愛でる動画やお写真、近況報告メッセージなど、
たくさんおまちしています!



動画もおまちしています!

日々愛でる

出射 優希

はじめまして。こんにちは。藍の學校にて『藍を愛でる』のお手伝いをさせていただき、いよいよです。京都芸術大学の文芸表現学科で、インタビューと執筆を学んでいました。そう、染織に関してはまったくの初心者です。一枚のまっさらな布になったような気持ちになるので、新しいことがはじまる瞬間はいつもわくわくしています。これを読まれているみなさんと同じく、「藍染って何かしら?」というところ

からはじまり、体験し、観察し、驚きながら学んでいきます。その中で、ものづくりの種と一緒に見つけ、育て、生活に根付かせられたら嬉しいです。藍を愛でることから、暮らしを愛でる日々がはじまりそうな予感がしています。

『愛でる通信』次回は8月

・みなさんから届いた #藍を愛でる
・生葉染めの方法 など 掲載予定!



みちみちに生えた
藍の双葉たち



創刊号

2024年6月

文・イラスト

オオニシカナコ

藍を愛でる はじまります!!

こんにちは。原点の手触り < 材料 > 「藍を愛でる」企画を担当しています、オオニシです。この講座では藍を種から育て、いつしか身近な藍を原点から再認識してみます。「講座」とありますが、講師と受講生、教える→習うという関係ではなく、藍を愛でるという共通の過程を通じて、互いに気づきを分かち合いながら、ときに助けあって進めていきたいと思っています。

みなさんは藍を種から育てたことがありますか? 藍も植物なので自分の思

うようにならないこともあるかもしれません。そんなこともこの講座では面白がってみましょう。今回「藍を愛でる」には約50名の方が 全国から参加してくださっています。どんな時間になっていくのかとても楽しみです!

オオニシカナコ
1999年生まれ
大阪府出身



育てる



藍はちいさなちいさな種からはじまります。水をあげながら、育てていく過程を観察しましょう。

記録する



育てていて気づいたこと、思い出したこと、レクチャーで知ったこと、それらを面白がって、なんでも「愛でる日記」に記してみましょう。

わかち合う



この企画には仲間がいます。ぜひ、#藍を愛でるをつけてSNSに投稿しましょう。なかまの発見を自分に取り込み、自分を耕しましょう。

スケジュール

日程	場所	形態	内容	講師
6月 28日 金 始 19:20 終 21:00	オンライン	導入	授業説明・自己紹介など	▲
7月 12日 金 始 19:20 終 21:00	オンライン	レクチャー	テーマ「藍と農」 講師：西村尚門	▲●□
瓜生山 workshop 28日 日 始 9:30 終 12:50	京都芸術大学 瓜生山農園	実習	藍の生葉染め&叩き染め 作品づくり *先着 20名 (6月29日申込開始) 参加費別途・受講生のみ参加可能	▲
9月 13日 金 始 19:20 終 21:00	オンライン	レクチャー	テーマ「農と芸」 講師：松井利夫	▲■
11月 8日 金 始 19:20 終 21:00	オンライン	レクチャー	テーマ「手から学び、ともに育つ」	▲□

▲ オオニシカナコ 染めもの作家

□ 出射 優希 ライター

■ 松井 利夫 陶芸家・京都芸術大学教授
滋賀県立陶芸の森館長

● 西村 尚門 Draw Dots Dawn 藍師・染師

*悪天候・災害などのやむをえない事情により変更をする場合があります。

*オンラインはWEB 会議配信ツールの Zoom を使用します。

*ZoomのURL等は開催前にメールにてお送りいたします。

*途中参加/途中退場可能です。お気軽にご参加ください。

*アーカイブの配信は予定しておりません。ご了承ください。

藍の育てかた

お送りしたもの

- ・藍の種
- ・培養土ポット（ジフィーセブン）

ご自身で用意するもの

- ・プラトレー（魚や肉の使い捨て食品トレー）
- ・透明の卵ケース（あると便利）
- ・大きめのプランター（地植えの場合は不要です）
- ・園芸用土

種を蒔く前に

培養土ポットの準備をしましょう

1. プラトレーに培養土ポットを置きます
2. 水を注ぐと膨らんできます。*完全に膨らむまでは半日ぐらいかかります
3. 膨らんだら土の上部を少しお箸などで少しほぐして準備完了です！



培養土ポット
参考動画

培養土ポットを使用せず種蒔きをする場合は、黒いビニルポットなど数個・種蒔き用の土（ホームセンターなどで販売しています）を用意して種まきしてください。

種を蒔く

1. 種を観察してみましょう。
2. 指先で揉むようにして種の周りについている殻を取りのぞきます
3. 膨らませた培養土ポットに3~5粒ずつ種を蒔きます。
4. 蒔いた種が隠れる程度にほぐした土を被せます。
5. 直射日光の当たらない場所に置き、霧吹きなどで土が乾かない程度に水をやりましょう。（室内管理 OK）
卵ケースの場合は2cmほど水を入れその上に培養土ポットを置き蓋をします。



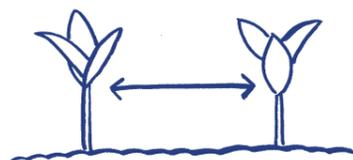
芽が2~3cmに生長したら必要に応じて間引きをしてください。



- 残ったタネは2年目になると発芽率が30%ぐらいに下がります。どこかに蒔いてみるのもおすすめです。

植え替え

1. 苗が5cm~10cmぐらになったら植え替えをします。
プランターに植える場合は大きな1本を残して他を間引くのが良いそうです。
2. プランターに園芸用土を入れて準備します。
培養土ポットから苗は出さずそのまま植えることができます。
3. 20cm~30cmぐらいの間隔をあけて植え替えをしましょう。
ここからは風通しのいい日光がよく当たる場所がおすすめです。



★藍はたっぷり水を与えてあげましょう。

プランターの方は特に毎日、土が乾燥しないよう、根腐れしない程度に水をやります。

生葉染めの方法は
次回の愛でる通信にて！

草丈が50cmぐらになり葉が10cmになれば収穫です。生葉染めはその葉をそのまま使います！

種について



小上粉（コジョウコ）

お届けした藍の種は、徳島県の奨励種の小上粉という種類です。その中でも「赤花小上粉」と言って咲き始めは白い花なのですがやがてピンクになる花を付けますよ。

蓼藍（タデアイ）

タデ科の一年草 日本で古くから使われてきた藍です。藍の種類は「蓼藍」の他にも「インド藍」「琉球藍」「大青藍」などがあります。また蓼藍もいくつかの品種に分かれています。



田尾 幹司さん

徳島県在住
京都芸術大学通信教育部染織コース所属

今回、藍の種を提供してくださいました。
ありがとうございます！

藍の話

藍染作家・京都芸術大学専任講師

梅崎 由起子

自然に目を向けると柔らかくて優しい、美しくも儂い色を見つけられます。私たちは季節、時間により変化し移ろいゆく色の中で暮らしています。空や海、地球の色にも例えられ、世界でも「ジャパン・ブルー」と呼ばれるほど日本のイメージとなっている色である「藍」の話をしましょう。

世界最古の藍は2016年にペルーのワカ・プリエタ遺跡から発掘された6000年前の綿織物に残されています。藍は特に綿や麻と相性が良いため、綿栽培が盛んに行われていた地域では青色を染められる染料として重宝されていたのではないのでしょうか。また藍は防虫・抗菌効果などの機能性を備えているのも魅力の一つです。

藍はタデ科植物タデアイ、マメ科植物インドアイ、キツネノマゴ科リュウキュウアイ、アブラナ科ウォード(大青藍)などがあり、日本本土では主にタデアイが栽培されています。色の元になるインディゴという成分が含まれている植物を藍植物と言い、

世界各地にその姿を見ることが出来ます。日本で栽培されている他の藍はリュウキュウアイです。これは、半日陰を好む性質がある為に沖縄のヤンバルの森のような中で育つのが特徴で、タデアイのように畑で栽培することができません。

今回、皆様にお送りした藍の種はタデアイで、品種は小上粉です。タデアイは一年生の草本植物で、成長過程で分枝する為に1本の藍草から沢山の葉を得ることができます。「水食い」と言われるほど水を好む為、朝晩の水やりは欠かせません。そして梅雨時期には雨が降るたびに目に見えて大きく成長し、種の姿からは想像できないくらい輝くような立派な姿になります。「藍を愛でる」の言葉通り、皆様が藍の成長を日々愛でることを願っています。様々な土地で藍がどのように育つか、私たちもとても楽しみにしています。